

令和2年度厚生労働科学研究費補助金
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
分担研究報告書

サードプレイスの種類別の参加割合—所得階層別での検討—

研究協力者 渡邊 良太 (千葉大学大学院 博士課程
国立長寿医療研究センター 研究生
津島市民病院 副主任理学療法士)
研究代表者 近藤 克則 (国立長寿医療研究センター 老年学評価研究部長
千葉大学予防医学センター 教授)

研究要旨

これまでの研究で低所得などの社会経済的要因が健康指標へ悪影響を及ぼしていることが報告されている。近年、自宅や職場に該当しないサードプレイスが注目されているが、サードプレイスの種類ごとにどのような所得階層のものが参加しているかどうかの報告は見当たらない。

そこで本研究の目的は青壮年者(20-64歳)が参加しているサードプレイスの種類ごとにどのような所得階層の者が参加しているかを明らかにすることである。

大都市在住20-64歳に自記式郵送調査を行い5,540人から有効回答を得た。8種類のサードプレイスの参加有無を目的変数、等価所得(200万未満, 200-399万, 400万以上)を説明変数とし、性・年齢を調整したロジスティック回帰分析を行った。

結果、サードプレイスの種類によって、等価所得400万以上で参加が多いサードプレイスとして「習い事・趣味」、「スポーツ」、「飲み屋」があることが明らかとなった。そのほかの「カフェ」、「銭湯」、「図書館」、「公園」、「その他」では、所得階層別の参加割合に差はなかった。このような状況を把握した上で、健康格差の是正に向けた取り組みを検討することが重要である。

A. 研究目的

これまでの研究で低所得などの社会経済的要因が健康指標へ悪影響を及ぼしていることが報告されている。近年、自宅や職場に該当しないサードプレイスが自分らしく過ごせる場所として注目されているが、サードプレイスの種類ごとにどのような所得階層のものが参加しているかどうかの報告は見当たらない。

そこで本研究の目的は青壮年者(20-64歳)が参加しているサードプレイスの種類ごとにどのような所得階層の者が参加しているかを明らかにする。

B. 方法

B-1: 対象

大都市在住20-64歳の20,000人に自記式郵送調査法にてアンケートを行い、回答を6,666人から得た。そのうち、性・年齢不明な者(50人)、研究同意を得ない者(1,016人)、サードプレイスの質問無回答者(60人)を除外し、分析対象者は5,540人とした。

B-2：変数

(1) 目的変数

サードプレイスの参加の有無とし、「自宅や職場以外で習慣的に通う居心地の良い場所はありませんか。(いわゆる「サードプレイス」※「自宅(ファーストプレイス)」でも、「職場・学校(セカンドプレイス)」でもない第3の居場所)」と尋ね、「はい」、「いいえ」で回答をもとめた。「はい」と回答した者には下記の8種類をもとに種類尋ねた。サードプレイスの種類は「習い事・趣味」、「スポーツ」、「飲み屋」、「カフェ」、「銭湯」、「図書館」、「公園」、「その他」を用いた。

(2) 説明変数

説明変数には等価所得を用いた。等価所得は200万未満、200-399万、400万以上、無回答の4群とした。

B-3：分析方法

サードプレイスのうち、種類ごとの所得階層別の参加者の特徴を明らかにするために、目的変数を8種類のサードプレイス、説明変数を等価所得(200万未満、200-399万、400万以上)とし、共変量に性・年齢を同時投入したロジスティック回帰分析を行った。

(倫理面への配慮)

本研究は、厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等を遵守し、個人情報(氏名や住所など個人が特定できるもの)を削除した匿名化されたデータを用いた。データ分析および研究成果の発表の際には個人を特定することは不可能である。

本報告では、神戸市の倫理審査委員会にて承認された「JAGES プロジェクト-若年層および高齢者の健康とくらしに関する疫学研究-」データの二次利用、および国立研究開発法人国立長寿医療研究センターの倫理・利益相反委員会(992-4、1244)、千葉大学の倫理審査委員会(2493)で承認されたJAGESの一貫として研究を行った。

C. 結果

C-1：記述統計

表1：サードプレイスの種類別参加割合(所得階層別)

	全体		200万未満		200-399万		400万以上	
	n	%	n	%	n	%	n	%
習い事・趣味	748	13.5	137	13.0	274	12.8	337	17.3
カフェ	523	9.4	116	11.0	196	9.2	211	10.8
スポーツ	428	7.7	73	6.9	127	5.9	228	11.7
飲み屋	254	4.6	35	3.3	103	4.8	116	6.0
銭湯	208	3.8	38	3.6	76	3.5	94	4.8
図書館	195	3.5	44	4.2	84	3.9	67	3.4
公園	147	2.7	34	3.2	56	2.6	57	2.9
その他	453	8.2	100	9.5	206	9.6	147	7.6

※等価所得無回答者の結果は表から割愛した。

結果より、「習い事・趣味」、「カフェ」、「スポーツ」の順に参加割合が高かった。

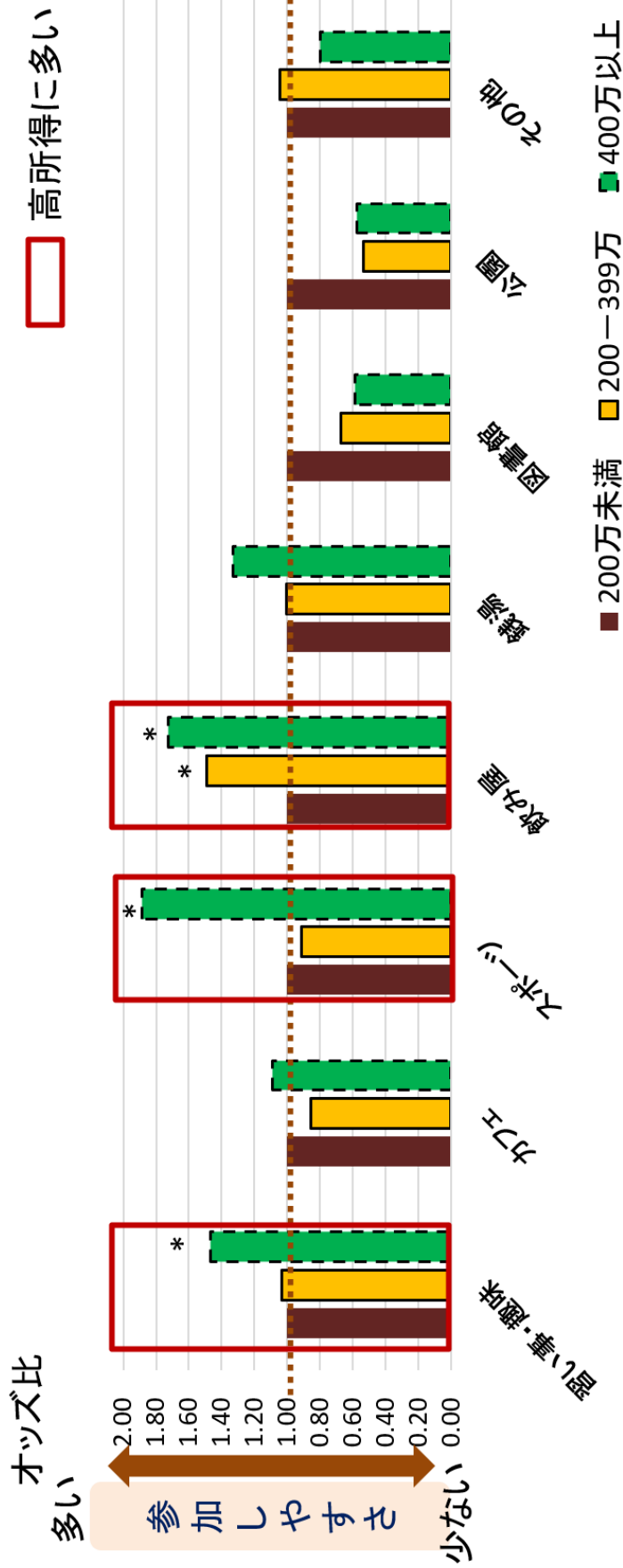


図1. サードブレイスの種類と所得階層

等価所得400万以上の高所得者層に参加が多いサードブレイスは「習い事・趣味」、「スポーツ」、「飲み屋」であった。

D. 考察

本研究の主な所見は、青壯年を対象としたサードプレイスの種類別に所得階層間で参加割合に差があるかどうか検討し、「習い事・趣味」、「スポーツ」、「飲み屋」では低所得者層よりも高所得者層で参加割合が高いことを示したことである。

一方で、行政が運営主体である「図書館」、「公園」では統計学的に差はないものの低所得者層で参加割合が高かった。健康格差是正の取り組みを行う上では、これらの所見を踏まえたうえで実施することが重要であると考えられる。

E. 結論

大都市在住 20-64 歳の青壯年者を対象にサードプレイスの種類別参加割合を等価所得別に検討した。結果、8 種類のサードプレイスのうち等価所得 200 万未満に対し、400 万以上で参加割合が高かったのは「習い事・趣味」、「スポーツ」、「飲み屋」であった。このような状況を把握した上で、健康格差の是正に向けた取り組みを検討することが重要である。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む.)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし